

## 『神の賜物を手に』 (使徒の働き 8章 4-25節) 2023.9.17.

<はじめに> 最近「自分へのプレゼント」をする人がいると聞きます。しかし、思いもよらないプレゼント、贈り物をいただくと、また違った感動と喜びがあります。それを贈ってくださった方の思いや意図を考えたりするからです。神様も私たちに賜物を与えてくださっています。

### I 神から受けたもの(4-8)

#### ①神の著しい御業

この箇所では、神がピリポやサマリヤの人々に与えた物事を見つけて挙げて列挙してください。みことばの福音(4)、キリスト(5)、しるし(6)、汚れた霊が出て行く、病人の癒し(7)、喜び(8)、神の国とイエス・キリストの名、バプテスマ(12)、しるしと大いなる奇跡(13)、聖霊(15)

#### ②散らされた人々(4-5)

サマリヤでの目覚ましい神の御業は、何をきっかけに起こったのでしょうか。ステパノへの石打ち刑から始まった教会への迫害で、信者たちが生き延びるためエルサレムから各地へ離散を強いられました。キリストを信じるが故に、彼らは多くを失いました。(ヨブ 1:21)。

#### ③信仰で受け取る

神が与えてくださるものを、人が選り好みしていいのでしょうか。与えられたものをしっかり受け取るのも、神への信仰です(ピリポ 1:29)。具体的にどんなことを信じているのでしょうか。(ヨハネ 13:7、ロマ 8:28、I コリント 10:13、ヘブル 12:11、イザヤ 55:8-11…も参考にして)

### II サマリヤでの出来事(6-17)

#### ①しるしと大いなる奇跡(6-7、13)

不思議なかたちで願いが叶えられ、求めが満たされると、人はそこに働く神を見ます。ピリポの働きに人々は関心を抱き(6)、またシモンの魔術にも人々は「神の力だ」と感じています(9)。両者は見かけはほぼ同じです。見分けるにはどうしたらよいのでしょうか。

#### ②大きな喜びとバプテスマ(8、12)

ピリポを通してのしるしと奇跡は、キリストを宣べ伝えるためのものでした(5)。それはサマリヤの人々の心に大きな喜びをもたらします(8)。人々はしるしと奇跡をきっかけに、神の国をもたすイエス・キリストを信じ受け入れて、バプテスマを受けました(12)。

#### ③聖霊を受ける(12-17)

サマリヤの噂を聞いたエルサレムの使徒たちは、確認と励ましのためにペテロとヨハネを遣わします。二人は彼らが聖霊を受けるよう、手を置き祈りました(14-17)。聖霊はキリストを常に指し示し(ヨハネ 15:26)、彼らといつものともにおられ、教え導かれます(ヨハネ 14:16)。

### III 神の賜物に対して

#### ①魔術師シモン(9-19)

元々シモンは魔術で人々を驚かせ、「自分は偉大な者だ」と話しています(9)。そんな彼もバプテスマを受けました(13)。彼はペテロとヨハネが手を置いた人々が聖霊を受けるのを見て、二人に金を差し出し「その権威を私にも下さい」と願い出ます(18-19)。

#### ②ペテロの叱責(20-24)

神の賜物を金で手に入れることはできません(20-21)。それは神と対等な取引をしようとすること、神の御前に自分は価値あるものとする思い上がりです。この行為の背後にある心(21、23)をペテロは責め、悔い改めるように強く訴え(22)、シモンも祈りを乞います(24)。

#### ③「私にも」と「私には」

イエスを信じる者に与えられる聖霊は共通ですが、その表れである賜物には違いがあります。主の御心を知り、それに歩むために「私にも聖霊をください」と求めることは大切です。しかし、御霊の賜物は御心のままに分け与えられ、私たちは遜って受け取るべきです。

<おわりに> 「主を用いず、主のために我は絶えず用いらる」(インマヌエル 343)は、神の賜物への基本です。神様が私たちに下さっている素晴らしい賜物を感謝して受け取っているでしょうか。与えられているものを「無い」と言ったり、見過ごしにはもったいないことです。(H.M.)